



普段着の私



総合相談・地域連携室 医療ソーシャルワーカー 重入 実代子

私は、訪れたことのない観光地に行ったり、美味しいものを求めて初めてのお店に行ったりすることが好きです。近頃、あまり遠出はできていませんが、以前は県外に出て、観光やアクティビティ、その土地の名物を楽しんだりしていました。コロナ前ですが、バリ島に行った時の景色は最高で、人や自然にも癒されました。もう一度訪れたい場所の一つです。

最近では、ずっと気になっていたお店に向き、肉汁たっぷりのハンバーガーや濃厚かき氷を満喫しました。今後も初めての土地へ行き、様々なものに触れていきたいと思います。



放射線部 診療放射線技師 小南 洋二

先日、スマートフォンとインターネットの利用状況を見直す機会があり、思わぬことにそれが家計と通信環境の改善につながりました。お昼ごろ、家電量販店を訪れると、店員さんが話しかけてきたので、営業トークと世間話を済ませてその場を立ち去ろうとしました。しかし、思いのほか話が弾み、耳を傾けるとなにやら「スマホやネットの料金プラン、キャンペーンなど」を教えてくれるとのこと。

早速、スマホとネットの料金プランを見直すと、従来のプランでは無駄な支出があることに気づき、それが家計の負担にもつながっていること、

さらに、サービスやアプリの利用料金を見てみると、無駄な支出が多いことに気づき、これからは定額制のサービスを解約して、必要なときだけ利用するように心に決めました。

終われば夕方、大仕事を終えた気分でした。そのおかげもあり、新しいスマホとネット環境をととのえ、家計の改善と通信環境の改善をすることができました。これを機に、今後も定期的に見直しをしていこうと思います。

みなさんも一度見直してみてもいいかなと思います。



研修予定について

2019 年よりパーキンソン病を中心とした神経難病の患者・家族が交流するセミナーを開催しており、今年度は、神経難病における治療研究の最前線に焦点をあて、各種相談や交流を通して日常生活支援を考えたいと思います。

と き 令和5年9月21日(木) 14:50～17:00 (受付14:00～)

と ころ 西播磨総合リハビリテーションセンター **対 象 者** 神経難病の方やその家族、患者団体、その他関係者等

演題・講師 ●『腸内細菌叢と難病』
京都府立医科大学大学院医学研究科 生体免疫栄養学講座 内藤裕二 教授

●『神経難病の治療開発の現状』
京都大学IPS細胞研究所 増殖分化機構研究部門 井上治久 教授

申込方法 当センターホームページ、電話、FAXにてお申込みいただけます。※要事前申し込み

参加費 無料

定員 60名

2023年度 おもな研修・セミナーの 開催予定

※印の研修・セミナーは、有料です。

●脳血管障害の症状と対応～生活行為・改善に向けて～	9月下旬 ※
●パーキンソン病の基礎知識とリハビリテーション	10月下旬 ※
●県民公開講座(パーキンソン病にお勧めの食事と運動～フレイル予防～)	11月25日(土)
●摂食嚥下障害のケアに関する研修	11月 ※
●認知症ケアセミナー	1月下旬

浜坂温泉保養荘

〒669-6702 兵庫県美方郡新温泉町浜坂775
URL <http://www.hamasaka-ni.com/>



高台に建つ ロケーション豊かな
『ほっ』とする宿

温泉で
ゆったり
しませんか…
**1泊2食
¥7,500～**

※65歳以上平日2名利用の場合



ご予約・お問い合わせは ☎(0796)82-3645

Play Sport

温水プール
体育館
トレーニング室
で楽しく運動！

西播磨総合リハビリテーションセンター
ふれあいスポーツ交流館

TEL 0791-58-1313
FAX 0791-58-1323
〒679-5165
たつの市新宮町光都1-7-1

リハビリテーション西播磨病院だより

ひがりの都

2023年
9月発行



ご挨拶

診療部長 山本 真士



4月から診療部長を務めさせて頂いております。4年前に当院に赴任して参りました。もともと相生市の出身で、昭和45年に生まれ小学校卒業までの思い出は、全て相生での暮らしになります。

実家は土着の百姓で、駅すぐ南にあり、戦後建てた木造2階建ての家に祖父母と7人で暮らしていました。当時の風呂はまだ五右衛門風呂で、周りの釜に当たって火傷をしないよう沈めた底板の上に身を寄せ合って座りますが、気を許して熱い思いをすることもありました。風呂の外には斧で割られた薪が束ねて乾燥されており、風呂炊きの火入れは大人がしますが、火の番は子供も手伝い、弱まれば薪やら雑誌などを適当に追加します。炭がいつまでも赤く美しく光っているのを顔がやけどしそうになるまで見入っていました。便所は和式汲み取り式のいわゆるポットン便所で、2階の便所の穴からは、子供一人がすっぽりハマるくらいの太さの筒が地面下の便槽まで真っ直ぐに深く暗く見えなくなる先まで伸び、便はその筒を暗闇へ落ちていくのですが、寝ぼけてその暗い穴にだけは嵌りたくないとの底から思ったものでした。敷地内には封をされていましたが井戸があり、横には納屋もありました。薄暗い納屋には斧や鍬や鉋、石臼や杵などが置いてあり、正月には餅米を蒸して餅つきをし、あんこ餅やきなこ餅をおいしく頬張りました。

家の前は車一台通れる幅のアスファルトの道が一本通っていましたが、家の間の細い土の路地を抜けて友達の家に行ったものです。家々には庭木や垣根があって緑も多く、蟻やダンゴ虫や蜘蛛の巣をついたり、蝶やトンボ、蝉などをよく捕まえました。蝉はニイニイゼミが多く、次いでアブラゼミやツクツクボウシばかりで、姫路城で捕れるクマゼミは鳴き声すら聞こえないのが不満でした。カミキリムシは近くのイチジクの木で捕れましたが、クワガタは遠くの秘密の木まで行かないとみかけませんでした。近くには小さな川が流れており、半分自然の土手を越えて川へ下りられる場所もありました。川は男の子達の良い遊び場で、石から石へ移り、蛙や魚を探して捕まえ、へびに驚いたり、時には川岸にひっかかった野良犬の死骸にウジが沸いているのを見つけたり、川は常に何かを期待して探して回る場所でした。また川は雨で増水すれば土色の濁流となり、まれに氾濫して洪水をおこすこともありました。

現在、我が家も路地もすっかりきれいに整理され、川も両側を深いコンクリートに挟まれ、生き物の気配もなくなりました。子供達もそういうものには興味がないようで、今の街のほうが普通のように。祖父母はとうに亡くなり、両親もおとなしくなり、自身も白髪や老眼や成人病などが目立つようになってきました。今の生活の方が便利で快適でよいのですが、子供の頃に見てきた風景は、なかなか幸せだった記憶として固定されてしまっているようです。

総合相談・地域連携室

当室は病院玄関を入ってすぐ右側、総合受付窓口の向かい側にあります。

室長の医師をはじめ、医療ソーシャルワーカー、看護師、理学療法士、作業療法士が在籍し、**様々な相談**に対応しています。

- 例えば…
- 「退院後の病院や施設について知りたい」
 - 「介護保険制度を利用するには、どうすればいいのか」
 - 「身体障害者手帳があれば、どのようなメリットがあるのか」
 - 「車いすや杖などを手に入れる方法は？」
 - 「住宅改修をするためには？」



など退院に向けて準備を進める上での疑問や不安に対する相談に応じ、より良い解決方法が見つかるようお手伝いをします。

また、入院前から退院後にわたり、急性期病院での状態把握、入院生活、退院後の在宅での生活支援と継続的に関わることで、患者さんの住み慣れた自宅への復帰を支援しています。

その一環として、**住宅訪問**を行っています。

住宅訪問について

入院時訪問

自宅復帰を目標としたリハビリテーションでは、自宅環境を想定した動作練習や自宅環境の調整が必要となります。入院時に、自宅の見取り図や写真などを家族に依頼しますが、慣れない作業であるため準備に時間がかかり、十分な情報を準備できないことがあります。当部署の看護師、理学療法士や作業療法士が訪問し、自宅の情報収集を行います。

退院前訪問

病気によって健康な時と身体や認知機能の変化がみられ、自宅環境の調整が必要となります。患者さん同席のもと、理学療法士と作業療法士が訪問し、日常生活の動作（食事・トイレ・入浴など）の確認を行い、手すりや福祉用具等についてアドバイスをします。

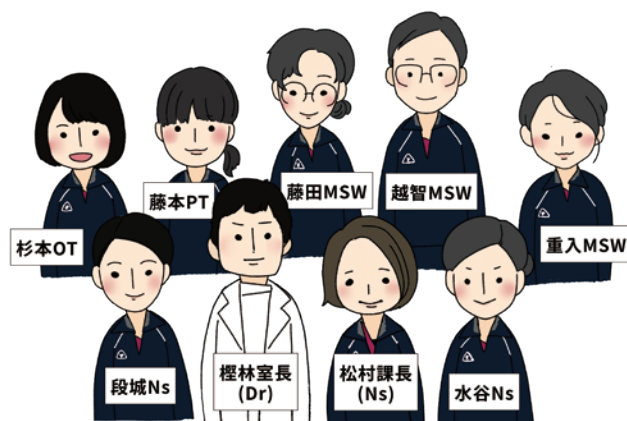
退院後訪問

当院を退院された患者さんで、屋内移動や改修後の生活で支障が生じている場合、看護師、理学療法士、作業療法士が訪問し、日常生活の動作や介護保険等のサービス利用の確認やアドバイスを行います。

入院前訪問

当院へ転院予定の患者さんが入院されている急性期病院に、看護師、理学療法士または作業療法士が訪問し、患者さんの状態を把握します。訪問にて得た情報は転院後の看護ケア・リハビリテーションに活かしています。

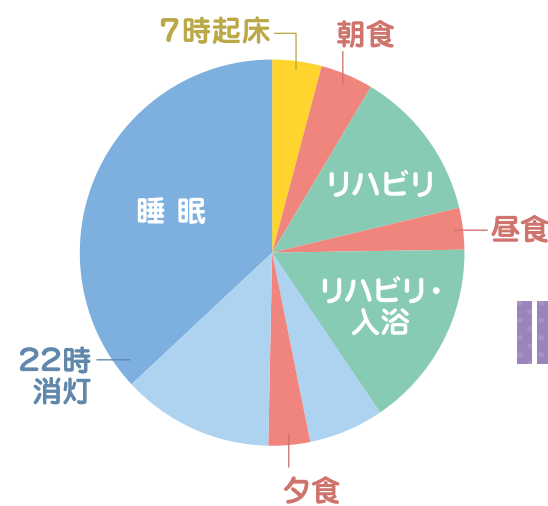
何かお困りのことがありましたら、お気軽にご相談ください。プライバシーは厳守いたします。
少しでも皆様のお役に立てれば幸いです。



入院患者様の1日の流れについて

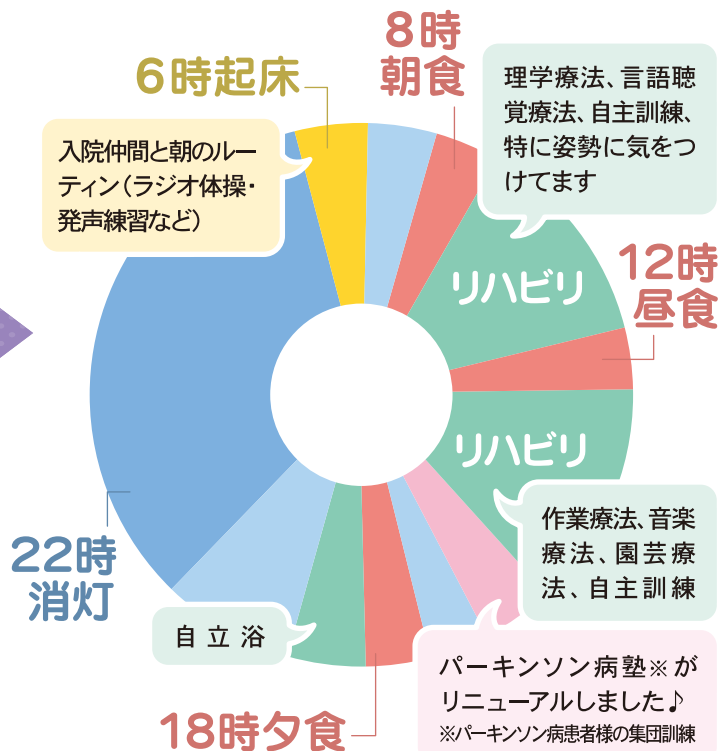


▼入院中の標準的なスケジュール



今後は、入院仲間との交流や情報交換も積極的に行なっていきたい。

▼パーキンソン病 Nさんの場合



西病棟では、患者様の自立度に応じて、移動の範囲を評価し、入院中の活動を応援しています。

※リハビリについては、患者様により内容が異なります。

脳卒中認定看護相談の実施について

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の阿曾です。

当院外来で、月2回の看護相談をはじめて、6年になります。看護相談といっても堅苦しいものではなく、主に退院された患者さま・ご家族から、退院後の生活や社会復帰などについて、雑談しながら疑問や不安をうかがっています。毎月約5名の方とお会いしますが、退院後のご様子を聞かせてもらおうと、私たち医療従事者が入院中には予想もしなかった状況（良くも悪くも）になっていることも多々あります。退院後にお会いして初めて、患者さまやご家族に**本当に必要なサポート**が分かったりすることもあります。また、脳卒中後の障害は、まだまだ一般の方に十分知られているとは言えません。周囲の方に相談してもなかなか分かってもらえないということもあるようで、「**話せてよかった**」と言われる方もおられます。

第1・3金曜日の午前中、予約は必要ありませんし、来院が難しい方は電話でも構いません。**ぜひ、お話をお聴かせください。**

詳細はチラシをご覧ください

